

第19回 会社の大事な秘密を「モレなく」管理するために 北村アドバイザー

情報は本来「形のないもの」

皆さんの会社で、ライバル会社に知られては困る大事な情報にはどんなものがあるでしょうか。また、そのような情報は会社のどこにあるでしょうか。そのほとんどが営業秘密として管理すべきものです。

ですから、「会社にとって大事な情報」の洗い出しは、秘密管理の活動において最も重要な作業です。洗い出しによって情報をリスト化できれば、何が「会社にとって大事な情報」であるかを全社員で共有し、同じ認識のもとに情報を扱うことができます。このことが、情報漏洩の防止に繋がるのです。

支援で中小企業を訪問し、営業秘密管理の取組に納得いただいた上で、「次回までに会社の大事な情報をリストアップしてください」とお願いすると、大抵の場合、紙ファイルや電子データを対象にしたリスト化がスタートします。

しかし、情報は本来「形のないもの」です。上記のような紙ファイルや電子データは、「会社にとって大事な情報」が文字や図などを利用して目に見える形となった1つの姿でしかありません。それ以外で社内には存在するものも「モレなく」洗い出ししておかなければ、全社員が「何が会社の秘密であるか」を認識し、そうした情報を「モレなく」管理することはできません。実際の支援では、製造現場を一緒に歩いたり、社長や実務担当者に企業の状況を事情聴取したりしながら、「会社にとって大事な情報」とは何か、それらがどこに存在しているかを一緒に考えながら助言をしています。

製造設備や治工具、金型、試作品などの物件

製造業の会社を支援していて、洗い出し作業の際、つい見逃しがちなものとして、製造設備や治工具、金型、試作品などの物件があります。多くのメーカーでは、独自の工夫が施された製造設備や治工具があり、また長年の工夫で最適なパラメータを見出していることがほとんどです。それらが無造作に製造現場や事務所に置かれていたりすることはないでしょうか。また、試作品が会社の秘密であるという認識が希薄で「無防備に試作品を提示してしまったら、それをヒントに取引先が勝手に類似品を量産・販売した」、「連絡がなくなったと思ったら特許出願されていた」ということも実際に起こっています。

このような「会社にとって大事な情報」が姿・形を変えて表れている製造設備や治工具、金型、試作品などの物件についても、工場見学などの機会にライバル会社に模倣されないように会社の大事な秘密として「モレなく」管理対象とすることが必要です。こうした物件については、物件がある作業場などに「立入禁止」、「写真撮影禁止」の掲示をすることや、見学の受け入れ時に、部外者の目に入らないようにシートで覆うといった対策をとみましょう。

頭の中だけにある情報

次に、従業員の頭の中だけにある情報も「モレなく」重要です。普段の支援業務で多くの会社を訪問していますが、技術ノウハウや製造レシピ、得意先情報などが、文書などの「形のあるもの」になっていないことがままあります。

頭の中だけにある情報を「形のあるもの」として会社の秘密のリストに加えることができれば、「〇〇の加工方法」といったカテゴリーとしてだけでなく、会社の秘密を具体的に特定して全社員

に認識させることができるようになります。そうすると、共同研究開発や退職者の対応において守秘義務の対象を明確にできますし、いざ問題発生となった際に「それが秘密とは思わなかった」という言い逃れの常套句を使わせないといった点でメリットが期待できます。

一方で、頭の中だけにある情報を「形のあるもの」とすることは手間がかかることです。訪問先でご紹介すると敬遠されることが多くあります。そのような中でも「世代交代、事業継承の準備にもなり、一石二鳥」と前向きな回答をいただくことがあります。一社一社の状況をよくお聞きして、できることから、必要な取組をご支援しよう、と熱意を新たにする瞬間です。

記事公開：2019年 6月 4日

会社内の秘密情報の取り扱いについてお困りごとがあれば、[営業秘密支援窓口](#)までご相談ください。

独立行政法人 工業所有権情報・研修館
知財戦略部 エキスパート支援担当
Tel：03-3581-1101（内線3823）
Mail：ip-sr01@inpit.go.jp

